

自立活動の目標と内容（特別支援学校小学部・中学部学習指導要領より）

1 目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う。

2 内容

1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。 (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。 (5) 健康の状態の維持・改善に関する事。
2 心理的な安定	(1) 情緒の安定に関する事。 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。
3 人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。 (4) 集団への参加の基礎に関する事。
4 環境の把握	(1) 保有する感覚の活用に関する事。 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。
5 身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。 (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。 (4) 身体の移動能力に関する事。 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。
6 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (2) 言語の受容と表出に関する事。 (3) 言語の形成と活用に関する事。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

流れ図（参考）

※特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 自立活動編より引用

学校・学年	高等学校・第1学年
障害の種類・程度や状態等	学習障害（読み書き障害）
事例の概要	学習上の困難を改善・克服するための方法を知り、その方法に習熟し使えるようにするための指導

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集
<ul style="list-style-type: none"> ・英単語は、発音を聞くとローマ字でその通りに書こうとするので正しい綴りで書くことができない。「難しい英単語を書けるようになりたいが、今の自分では書けない」と英語の授業に対して積極的ではない。 ・英語の単語をローマ字読みしてしまうため、耳で聞いて知っている単語でも読めないことが多い。 ・英語の会話文を聞いて、半分程度理解できる。もっと英語ができるようになりたいと願っている。 ・文字でなければ形を認識することは困難ではなく、美術や数学の図形問題はよくできる。 ・日本語の漢字の読み方については、訓読みはほぼできるが、音読みは苦手で、意味の理解も不十分である。 ・コンピュータ等の情報機器で文章入力することは得意である。タッチタイピングが可能で、フリック入力（タッチパネルを利用した指を上下左右に滑らせる入力方式）では1分間に70文字程度の速度で入力ができる。コンピュータ等の情報機器を活用することで、学習、コミュニケーションがしやすくなると感じている。 ・同級生との会話ではうまくかみ合わないこともあるが、学級内で孤立しているわけではない。 ・別室受験や読み上げ支援を受けていることは、「友達に知られても仕方ない」と教師に発言している。

②-1 収集した情報（①）を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の特性（読み書きが苦手）は分かっているが、原因までは理解していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み書きの苦手さやそれに対する配慮を友達に知られることは不安である。 ・できないことは仕方ないと思っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・形を視覚的に捉えることは得意である。 ・文字と音声を結びつけて同時に記憶し再生しようとする、曖昧になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手先の巧緻性があり、慣れれば素早く動かすこともできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代替機器等を使用すると効率的に書くことができる。 ・日常会話の中で使われる漢字熟語の意味の理解は不十分である。

②-2 収集した情報（①）を学習上又は生活上の困難の視点や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・学習においては、読み書きの困難が英語科において顕著に表れているが、日本語においても熟語の読みが苦手なところから、聞く場合でも学年相応の理解ができていないと考えられる。（コ） ・読み書きが困難であることは分かっているが、どのように解決していけばよいかまでは明確には分かっている。（健、心） ・「タブレット型端末を学校で使うことができれば、読み上げ機能を使って読んだり、分からない言葉を調べたりすることが速くできる」と言っている。（環） ・学習の遅れにより、学習以外の生活上の様々なことについても自信を無くし始めている。（心）

②-3 収集した情報（①）を〇〇年後の姿の観点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・数年後には社会人となり、コンピュータ等の情報機器等を使用することに制限がほぼなくなると考えられる。（健、心、環） ・「将来はタブレット型端末があれば読み書きが苦手でも何とかやっていけそうだ」と本人が思うようになってきている。（心、コ） ・自信を失うことなく生活を送ることができるようにすると共に、更にICT等の利用に習熟することが大切である。（心、コ）

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・代替手段の選定とその習熟、代替手段の適切な使用により学習上の困難を軽減させる。（環、コ） ・代替手段や自分の得意なことを生かした方法を適切に使用することにより、学習上の困難を軽減させる。（コ） ・自分自身の困難の状態やその原因を理解する。（健） ・方法を工夫すればできるという自信を高めていく。（心）

図12 学習障害

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> 読み書きの困難を軽減するための自分に適した方法がわかり、その方法が必要である理由を理解する。 学習上の困難を改善するための認知機能の大きく向上することについては、高等学校第1学年という生活年齢ではあまり期待できないため、代替手段の活用を重視する。 得意なことを生かして苦手なことを補うことができるようにする。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階 <ul style="list-style-type: none"> 英語を中心とした学習上の困難を改善・克服するための方法を知り、その方法を用いて、他の生徒の平均と同じ程度の時間で読み書きができる。 自分が提供されている合理的配慮の必要性を、質問されたときに説明することができる。
---------------------------	--

指導目標を達成するために必要な項目の選定	⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。		(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。		(2)言語の表出と受容に関すること。 (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること。

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント
<ul style="list-style-type: none"> 困難を乗り越えるために使用するICT機器等や方法に関わる内容として(環)(2)(3)とコ(2)(4)(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧アである。 失っている自信を取り戻すために、(健)(4)と(心)(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧イである。 高校生段階としての自己理解ができるようになることを目指して、(心)(3)とコ(2)(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧ウである。

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	⑧ 具体的な指導内容を設定する段階		
	ア コンピュータ等の情報機器等を使用して読み書きの困難を乗り越える方法に習熟し、必要に応じて、その成果や意図を他者に説明できる。	イ 適切な方法により、読み書きはできるようになることを理解し、今はできないことでも挑戦しようという気持ちをもつ。	ウ 読解に際して行われる情報処理過程の概略を理解し、自分の困難は方法を工夫することで乗り越えられることに気付く。

図12 学習障害

参考資料